平 成 ３０ 年 度

学 校 評 価(結果)

育てたい生徒像
１ 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心を持つ生徒
２ 人権を尊重し，民主的でかつ協和の精神に富んだたくましい生徒
３ 勤労と責任を重んじ，自主的・自立的に行動できる生徒
４ 自己のあり方や生き方について考える生徒

徳島県立小松島西高等学校勝浦校

総　括　評　価　表

重点課題　1
「わかる授業の展開と確かな学力の定着」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 基礎的・基本的な知識・技術を習得させるため，指導方法の工夫・改善を行い，生徒の学力の定着と向上を図る。 （下位組織レベル） ①学習習慣の定着 ②基礎学力の向上 ③指導技術の向上と評価方法の工夫・改善 ④授業時間数の確保	①-1 学習プリント等の整理（ﾌｧｲﾙ綴じ） 机上・ロッカーの整理整頓 １年生　６０%以上 ２，３年生　９０%以上	①-1 学習プリント等の整理（ﾌｧｲﾙ綴じ） 机上・ロッカーの整理整頓 １年生　７５％　２年生　９０％ ３年生　８９％	C	評定　B （所見） アンケート結果より，大半の生徒が授業の内容に満足していることがわかった。今後も基礎基本を重視したわかる授業をめざし，生徒に実態に応じて授業内容の改善，評価方法の見直しを行っていきたい。 自主学習に関しては，個々に声かけをすることで学習時間が増えた生徒や放課後補習などに積極的に参加する生徒もおり，勉強する大切さを粘り強く伝えていく必要がある。 また，学力向上をめざして火曜日，金曜日の朝のＳＨＲにおいて漢字力ＵＰプリントを用いて漢字学習を行っている。１人でも多くの生徒に読み書きに関する関心を持たせ，漢字検定の合格につなげていきたい。	B	○授業内容の改善 評価方法の見直し
	①-2 家庭学習の習慣化 自宅学習ゼロ時間でない生徒 １年生　４０％以上 ２，３年生　６０％以上	①-2 家庭学習の習慣化 自宅学習ゼロ時間でない生徒 １年生　６３％　２年生　４５％ ３年生　２３％	C			
	①-3 長期休業中の課題提出率 １，２年生　８０％以上 ３年生　９０％以上	①-3 長期休業中の課題提出率 １年生　８９％　２年生　８８％ ３年生　９４％	A			○自主学習の習慣化
	②　授業の取組に関するアンケート 生徒の自己評価　８０％以上	②　授業の取組に関するアンケート １学期末　自己評価　平均８５％ ２学期末　自己評価　平均９０％	A			
	③-1 授業見学会の実施 各学期に１回	③-1 １学年　２月１４日（木） ２学年　９月２０日（木） ３学年　６月２８日（木）	A			
	③-2 年間学習指導計画の検討 評価方法の改善	③-1 各教科の観点別評価に基づき，年間学習指導計画の評価の方法について見直しや改善を行った。	B			○学校行事の精選 ○授業時間数の確保
	④　授業実施率（２学期末現在）の向上	④ 今年度，大雨警報発令により４日間臨時休校となった。このため，例年より授業実施率が減少した。	C			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1 整理整頓　自己管理の徹底 毎時間机やロッカーの整理整頓ができているかチェックし、配布物はファイルに綴じさせ、自己管理をさせる。	①-1 ほとんどの生徒ができているが，学習プリントをそのままロッカーの上に置いたままにする生徒が数名いる。	①　学習プリント等を整理整頓させるには，指導者が生徒に粘り強く指導を継続しなければならない。生徒の自己管理力向上をめざし，継続して取り組む必要がある。 家庭学習を行っていない生徒が多いが，定期考査直前は家庭で学習に取り組んでほしい。 長期休業中の課題は次年度も目標を達成することができるよう，担当者が連携して指導していきたい。		基礎学力は，必要不可欠である。将来，進路を保障するためにも学習意欲を高め，自学できるよう継続指導してほしい。	○教室の美化 ○学習環境の整備 ○家庭学習の習慣化
	①-2 家庭学習時間の調査 各ＨＲごとの集計	①-2 家庭学習時間の調査を各ＨＲごとに実施したが，家庭での学習は定着していない。				
	①-3 課題提出状況の調査 教科担当とＨＲ担任の連携した指導	①-3 課題の提出状況を共有し，教科担当だけでなくＨＲ担任からも課題の提出に関する指導を行った。				
	②　アンケートの集計 結果に関する情報共有，状況改善	②１学期末，２学期末にアンケートを実施し，その結果を校務運営委員会などで周知し，状況の改善に努めた。	②アンケート結果から生徒の素直な感想や意見を知ることができた。			○アンケート結果の情報発信
	③-1 授業見学会　実施方法の改善 授業者の指導力及び生徒の状況把握	③-1 多くの先生方が授業を参観することで生徒も授業に集中することができた。	③授業見学会は一定の成果があったように思われる。今後も教員の授業力の向上，わかる授業の実施につながる取組を継続して実施する必要がある。		他の教科の授業を見学することはとてもいいことであると思う。研究授業・公開授業等を実施して，教科を越えて多くの教師が参加できる有意義なものにしてほしい。	○より充実した授業見学会の実施
	③-2 各科目における評価基準の検討 生徒の実態に応じた授業展開	③-2 各科目の年間学習指導計画の作成にあわせて授業の単元や評価基準の検討を行っている。				
	④　授業の実施時数の集計 授業実施率の算出 学校行事の精選，授業の振替え等	④校務運営委員会において，授業実施率を報告した。担当の先生方と連携し学校行事の精選を行った。	④今後も各課と連携して学校行事の精選に努めていきたい。また，出張・年休等による授業の振替えも可能な範囲で実施していきたい。		教員が減少し，十分な教科指導や生徒指導ができなくなってしまうことを危惧する。	○授業の振替えによる自習時間数の削減

総　括　評　価　表

重点課題　2
「豊かな人間性の育成と人権教育の推進」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 一人一人を大切にし，互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに，生命や人権を大切にする意欲を培い実践力を身につける。 （下位組織レベル） ①ホームルーム活動づくり ②教職員研修の充実	①-1　人権学習ホームルーム活動満足度 80 %をめざす。 ①-2 いじめ等に関するアンケートを学期に 1 回実施し，実態を把握し防止に努める。 ①-3 全学年で道徳教育のホームルーム活動を計画的におこなう。 ②教職員研修対象の研修会参加率を 85 %以上をめざす。また，その充実感や満足度を 70%以上にする。	①-1　満足度は生徒約 82 %，教職員が約 80 %であり，次年度はさらに満足度の向上をめざしたい。 ①-2　いじめ問題に関するアンケートを実施し，ホームルームの環境づくりに活かすことができた。 ①-3　道徳教育のホームルーム活動は実施できなかったが，日々の社会道徳の指導などで積み重ねることができた。 ②　教職員対象の研修会の参加率は約 80 %を超えた。また充実感や満足度は約 70 %であった。	B B B	評定　B （所見）人権学習ホームルーム活動は，今年度は「性の多様性について」の問題を中心とするホームルーム活動を全学年で実施。生徒の理解度や関心も約 80 %以上と高かった。教職員に対しても性的マイノリティについての研修と同和問題勉強会を実施したので充実度も高かった。また「防災と人権」のホームルーム活動と炊き出し訓練を今年度も実施することができた。生徒・教職員も満足度は高かった。今後も教職員の研修会等を充実させるため，日程や内容を精選する必要がある。	B	○実施内容の工夫及び教職員対象の勉強会の実施 ○同和問題学習の充実 ○研修内容の検討
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1 人権学習ホームルーム活動を行うにあたっては，人権教育課が学年に応じた資料を提示する。	①-1 今年度は個別人研課題中心の人権学習ホームルーム活動なので各学年担当から学年に応じた資料を提示した。	①-1 年間を通して個別人権課題に取り組んだ。また「性の多様性」について全学年で学習に取り組むことができた。		幅広い人権問題に取り組んでおり，すばらしいことだと思う。 数年来，スマホの普及により表には見えないトラブルが増えている。普段の生活の中での生徒の言動や変化にいち早く気づき，良き相談者になってほしい。 昨今，保健室での相談も増えており，生徒は「聞いてもらえる」という安心感を持っているのではないか。	○各ホームルーム活動実施前の事前勉強会実施
	①-2 いじめなどに関するアンケートを実施し，実態把握に努め，適切な対応をおこなう。	①-2 いじめ問題に関するアンケートが実施できた。	①-2 本年度はいじめ問題を中心とする人権意識調査を行うことができた。			○アンケート内容の再検討
	①-3 道徳教育のホームルーム活動を実施する際には全学年の統一の指導案を作成する。	①-3 行事等の関係で今年度は実施することができなかった。	①-3　来年度は行事など日程をみながら，道徳教育のホームルーム活動に関する指導案を作成する予定。			○活動内容・テーマの検討
	②-1 校外の研修会には，教職員が少なくとも年間 1 回以上参加するようにする。	②-1 日程や内容により，全員の教職員が参加することが難しかった。	②-1 教職員が充実した研修を受ける事ができる環境整備に努力が必要である。		差別のない社会をつくることが教育者の使命である。今後も引き続き，自らの資質・能力を高めるための研修を充実してほしい。	○計画的な実施及び効果的な研修内容の検討
	②-2 校内の研修会を年間 2 回以上実施する。	②-2 今年度は「性的マイノリティについて」基本的なことや事例について講演を通じて教職員で共有することができた。	②-2 身近に存在する重大な人権問題について話し合うきっかけになったので，これからも積極的に取り組んでいきたい。			
	②-3 特別支援教育の理解を深めるために，年間 1 回以上研修会を実施する。	②-3 特別支援学校から講師を招き，特別支援に関する研修会を実施した。	②-3 学校の実態に応じた研修会を展開していくことが必要である。			○関係諸機関や保護者とのスムーズな連携
	②-4 特別支援関係機関との連携・相談をはかり，ケース会議を年間 2 回以上実施する。	②-4 ケースに応じて近隣の特別支援学校と連絡を取り，相談をおこなった。またケース会議を実施した。	②-4 生徒に関する情報を教職員でいつでも共有できるように,会議の日程や内容を吟味していく必要がある。			

総　括　評　価　表

重点課題　３
「キャリア教育の推進と進路希望の実現」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせ，主体的に進路を選択する能力と態度を育てる。	①-1 卒業時における生徒の進路決定率 90％以上をめざす。	①-1　卒業時における生徒の進路決定率 ８６．５％　（１月末）	B	評定　B （所見） １年生のうちから将来について考える機会をもたせ，常日頃から生徒と話すことにより将来について展望をもたせ考えさせることができた。生徒と保護者が進路について話し合う機会も増えた。 「勝浦塾」や進路ガイダンス等を通じて仕事に対するイメージを持たせることができた。 資格試験については，生徒が主体的に取り組み将来役立つような活動ができた。	B	○進路について考える機会を増やす。 ○「勝浦塾」への参加を呼びかけ，仕事をするということについて考えさせる。
	①-2「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 80％以上をめざす	①-2　「勝浦塾」就業体験自己評価肯定率　８９．１％	B			
	②総求人数 250 人以上をめざし，60 社以上企業訪問を実施する。	②　総求人数　５２０ 訪問企業数　７８	A			
（下位組織レベル） ①組織的なキャリア教育の推進 ②企業訪問と求人開拓 ③資格取得の奨励	③資格・検定合格率 １年生 刈払機取扱作業者教育　80％以上 ２年生 日本農業技術検定３級　70％以上	③　資格・検定合格率 刈払機取扱作業者教育 合格者　３５名（１００％） 日本農業技術検定３級 合格者　９名（　２７％）	B			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	○就業体験学習の継続実施 ○就業体験の意義について１年次から指導をおこなう。
	①-1 2 学期に「勝浦塾」（企業訪問・見学）をおこなう。ポスター等で成果を報告する。	①-1　２年生全員を対象に企業見学を実施した。企業の方から進路に向けた指導助言をいただいた。収穫祭では，その成果をまとめ掲示した。	①-1　企業見学を実施したことにより、仕事の内容を知ることができた。また企業の方から仕事の喜びや厳しさを教えられたことにより勤労観が育成された。		２年生全員で徳島県の大手の企業を見学に行き，実態や実務を知ることは大変有意義である。得た成果を報告し，生徒自身の気づきや意識の向上につながっている。職業体験についても，より多くの職種を体験させてあげてほしい。	
	①-2 職業理解・職業体験のため分野別の職業ガイダンスを学期に１回実施する。３年生は職業ガイダンスを実施する。	①-2 進路ガイダンス・職業体験を学期に１回実施した。１年生は進路相談会に参加し，３年生は職業ガイダンスを行い，就職の心構えを学んだ。	①-2　職業体験により実際の仕事について学べる機会ができ，体験することによって適性も判り将来について深く考えることができた。			○体験したことを活かして適切な進路指導へと繋げる。
	②-1 進路指導課・３年学年団を中心に５，６月に企業を訪問する。	②-1　５，６月に管理職・進路指導課・３年生学年団が分担して企業訪問を実施して求人依頼を行った。	②-1 生徒との面談を通じて生徒が希望する職種を把握し，それに応じた企業訪問を計画的に実施することができた。		多くの企業と信頼関係を結び，求人獲得に努めてほしい。	○生徒の希望を把握し会社と連携する。
	②-2 ホームルーム活動，授業等を通じての進路指導を年３回以上おこなう。	②-2 各学期において進路指導についてのＨＲ活動や授業を行った。	②-2 進路指導の授業等を通じて，どのような高校生活を送れば良いのかと考える良い機会となった。		将来，希望の職種に就くために何をすれば良いかを考え，強い意志を持って生活するように導いてほしい。	○将来の進路と高校生活について結びつけて考えさせる。
	③-1 関係機関との連携 各種検定や資格に関する情報発信	③-1 園芸装飾技能士，小型車両系建設機械，危険物取扱者など検定や資格の合格者を出すことができた。	③　各種検定や資格取得について積極的に取り組むよう，ＨＲ担任や資格担当教員による情報発信を行うことができた。 農業技術検定の合格率を向上させる指導のあり方について，検討する必要がある。		資格を持っていることが大変有利になる。なるべく多くの資格取得に挑戦させてほしい。	○日本農業技術検定の合格者を増加させる。
	③-2 ２年生 科目「課題研究」での検定対策 過去問題等の活用，指導方法の改善	③-2 検定前に授業形式で，過去問題に取り組む補習を行った。				

総　括　評　価　表

重点課題　4
「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し，社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに，自律心を養い規範意識を醸成する。	① 年間５回以上全校集会を実施し，頭髪・服装指導や特別指導防止に向けた生徒指導面での改善を図る。	① 毎月はじめに全校集会を実施し，頭髪・服装・指導をな らびに生活面でのアドバイスを実施した。	B	評定　B （所見） 一昨年度から毎月月はじめに全校集会を開催し，基本的生活習慣の確立を目指した全校集会を実施している。 また，クラスを中心に遅刻無断欠席に係る指導に努めた。 交通安全教室は１回実施した。	B	○今後も継続して毎月全校集会を実施する事で，生活面での指導の向上が期待できる。
	② 遅刻・無断欠席改善指導については，前年度から１０％の削減を目指す。段階に応じて保護者面談等を実施する。	② 各クラスのホームルーム担任を中心に遅刻無断欠席に係る指導を行った。	B			
（下位組織レベル） ①頭髪・服装指導の徹底 ②基本的生活習慣の育成 ③交通事故の防止と通学マナーの向上	③ 校内，校外における交通安全講習会を年１回以上，運転技能向上講習会を年１回以上開催する。	③ 本年度については、年間１回交通安全に係る交通講習会を実施した。なお，運転技能講習会については対象者がいないため実施せず。	B			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	○今後も継続して毎月全校集会等を通じて生活面での指導の向上が期待できる。
	① 各学期の節目に全校集会をおこない，ＨＲ，学年，学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら，効率的で公平な指導をおこなう。	① 本年度については、毎月全校集会を実施し,学年，学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら，効率的で公平な指導をおこなった。	① 毎月全校集会を実施し,学年，学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら，効率的で公平な指導に努めることができた。		生徒に校則の意味や必要性を十分に理解・納得させて，教員全員が連携し指導している。今回，制服に女子のスラックスを導入したことはすばらしいことだ。	
	②-1 朝のあいさつ運動や，日々の学校生活全般，農業教育をとおして生徒，保護者，教員間のコミュニケーションを密にし，生徒の基本的生活習慣の育成をおこなう。	②-1 本年度,朝のあいさつ運動や，日々の学校生活全般，農業教育をとおして生徒，保護者，教員間のコミュニケーションを密にし，生徒の基本的生活習慣の育成をおこなった。	②-1 本年度,朝のあいさつ運動や，日々の学校生活全般，農業教育をとおして生徒，保護者，教員間のコミュニケーションを密にし，生徒の基本的生活習慣の育成に努めることができた。		今後，あいさつ運動が実施できないということが残念だ。	○今後も継続して実施することにより，生活面での指導の向上が期待できる。 ○バスの到着時刻が大幅に遅れることにより，あいさつ運動に参加できる生徒が確保できない。
	②-2 月１０回以上の生徒を対象に，学校全体で遅刻改善指導を実施する。	②-2 月１０回以上の生徒を対象に，クラス担任主導で遅刻改善指導を実施した。	②-2 １０回以上の生徒を対象に，クラス担任主導で遅刻改善指導に努めることができた。		基本的生活習慣をつけることで生活リズムが確立される。継続指導をお願いしたい。	
	③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い，バス会社や地域，家庭と連携した指導を実施する。	③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い，バス会社や地域，家庭と連携した指導の実施に努めた。	③-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い，バス会社や地域，家庭と連携した指導を実施に努めることができた。		バス通学指導は，公共のモラルを教える良い機会である。 最近は自転車の運転マナーの向上が叫ばれている。事故がないというのが一番大切なので，自分の命は自分で守るということを教え込んでほしい。 町も引き続きダイヤ改正や増便，阿南方面の運行などを要望していきたい。	○今後も継続した指導に努める。
	③-2 駐輪場の整理・整頓，年度当初の車体検査,校内外の交通安全教室を実施し，交通規範意識の向上を図る。	③-2 駐輪場の整理・整頓，年度当初の車体検査，校内外の交通安全教室を実施し，交通規範意識の向上に努めた。	③-2 駐輪場の整理・整頓，年度当初の車体検査，校内外の交通安全教室を実施し，交通規範意識の向上に努めることができた。			○今後も継続した指導に努める。
	③-3 全てのバイク通学生徒は年１回以上２輪車実技安全講習を実施し，運転技能向上と，交通安全の規範意識を高める。	③-3 今年度バイク通学生はいなかったため，２輪車実技安全講習は実施しなかったが，自転車シミュレーター用いて交通安全に関する指導をおこなった。	③-3 今年度バイク通学生はいなかったため２輪車実技安全講習を実施しできなかったが，個別に指導し運転技能向上と，交通安全の規範意識を高めるることができた。			○今後も継続した指導に努める。

総　括　評　価　表

重点課題　5
「特別活動の活性化と環境教育の推進」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 創造的な活動を通して集団，社会の一員としての自覚を深め，よりよい生活，環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。	①-1　生徒の特別活動満足度 90 %をめざす。	①-1　体育祭・文化祭・収穫祭の平均満足度　９２．５%	B	評定　B （所見） 学校行事の面においては，生徒会を中心に活動が円滑に行われ，満足度も一定の数値は得られている。しかし，すべて生徒会役員に依存している状況は今年度もかわらない。またあいさつ運動は，誰でも参加可能のボランティアではあるが，生徒会役員ですらバスの時刻表改正のため参加できず，人数も増えず，また各種委員会の活動も今年度もあまりできなかった。 部活動は，部員が一定数集まらず，だんだんと活動しなくなるなど少人数校の残念な面があるが，本校の中心部活であるライフル射撃部や民芸部は今年度も全国規模で活躍している。他の部も，どうにか活動できるようにしていかなければならないと考える。 環境活動は引き続き取り組んでいこうかと考えている。	B	○すべての行事の計画・立案・相談の迅速化 ○特活課と農業科，および各担当との連携 ○文化祭・体育祭・収穫祭のあり方の模索 ○部活動の活性化 ○節電・ごみ分別・リサイクル活動の推進
	①-2　朝のあいさつ運動を毎日実施し，平均参加者数 5 名をめざす。	①-2　平均参加者は２名（12 月末まで）で，目標には届かなかった。	C			
	①-3 収穫祭における来場者数 300 名をめざす。	①-3　収穫祭の来場者数　約２８０名 今年は日曜日実施のため，昨年度よりは増えたが目的の農産物を買うとすぐ帰る人が多いように感じた。	B			
	①-4　学年集会を５回以上実施する。	①-4　クラス別・学年別集会を５回実施した。	A			
（下位組織レベル） ①生徒会活動・ＨＲ活動の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③環境・エネルギー教育の充実	①-5　生徒会行事の度に学校 HP に掲載し，情報発信に努め，理解と協力を促す。	①-5　行事の予告や報告，部活動の結果について毎回掲載した。	A			
	②　部活動加入率 50 %をめざす。また部活動における生徒の満足度 90 %をめざす。	②　部活動加入率　５４．８% 部活動における満足度　５２．８%	B			
	③-1 ゴミ箱の設置方法を工夫し，ゴミの分別の徹底を図る。	③　分別が徹底できていない面も見られたが，一定の成果は上げている。	B			
	③-2　定期的に校内清掃活動を行う。その際の生徒会役員の参加率 100 %をめざす。	③-2　参加率　１００% 約月１回，生徒会役員による校内外の清掃活動を自主的に行っていた。	A			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1 本校の伝統となっている挨拶運動を引き続き実施する。参加者を増やすために，生徒会や生活委員会に強く呼びかけると共に，有志を募る活動を行う。	①-1　実施時間を遅らせたがバスの時刻表が変わりバス通学生が参加できなくなった。３年生の有志でがんばってはいたが，とうとう誰も参加できなくなってしまった。	①-1　バスの時刻表改正のため，継続してきたこのあいさつ運動がとうとう実施できなくなったことは，大変残念なことである。また改正もあると思うので，復活できればいいと思う。		今まで続いてきたあいさつ運動が実施できなくなったということは，大変残念なことである。	○「あいさつ」の意識付け
	①-2 生徒による新しい活動の企画・運営が図れるよう指導する。	①-2　文化祭で生徒会によるダンスを行い，場を盛り上げた。しかし，体育祭では，職員も生徒も手が足りないということで，プログラムを大幅に変更して競技数を減らした。	①-2　生徒自らが積極的に関わり楽しもうという意識が芽生えてきたが１・２年生の主体性が薄いように感じられる。体育祭は好評であったが，文化祭の出場者が少なくなってきたことが課題である。		少人数の学校ではあるが，知恵を絞り充実感や達成感を得られるような行事が実施できれば良いと思う。 本校・分校・クラス・学年を越えてコミュニケーションをとり，協働性を育ててほしい。	○文化祭のあり方の検討 ○体育祭の種目の検討
	①-3 学校行事への主体的な参画が図れるよう指導する。	①-3　学年別集会を５回実施し，主体的に取り組む環境を設定した。	①-3　学年で団結することにより，各々の理解が深まっているように感じた。			○内容の充実
	②-1 自然科学部は，農業の授業とも絡ませ，より地域に出て行きやすくするために，全員参加の部活動の形態を取らせる。	②-1　部活動と農業の授業を関連させることで起動力が生まれ，活動の幅が広がった。	②-1　イベントなどに出て行く場合は，参加者が固定されてくるということが課題である。			○綿密な連携
	②-2　収穫祭等での本校との交流活動を盛んにする。	②-2　１２月開催ということで本校が期末試験中であり吹奏楽部の参加や「雪花菜アイス」の販売はできなかった。	②-2　ことしは本校の生徒が来られず，生徒同士の交流はできなかった。			○本校や地域への積極的な働きかけ
	③-1　毎日の清掃時には職員を配置し，ゴミの分別を徹底させる。	③-1　職員配置はできている。しかし，分別の徹底はできていない部分もあった。	③-1　生徒会役員が約月 1 回，校内外の清掃活動を行っており，それを目の当たりにした他の生徒のマナーの向上や節電・ごみ分別・リサイクルの意識の変革，向上を望みたい。		勝浦校は毎年，防災教育を行ってくれている。継続してほしい。 また環境問題の取り組みも継続指導をお願いしたい。	○一人一人のマナーの向上
	③-2　生徒会や有志による校内清掃活動を月 1 回行う。	③-2　約週１回，生徒会役員による校内外清掃活動を自主的に行っていた。				○環境美化に関する意識の向上

総　括　評　価　表

重点課題 6
「学校の活性化，産業教育の振興と新しい学校づくり」

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 基礎・基本の定着を図りこれまでの教育を創造し，地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。 ①本校教育の地域への還元 ②農場経営の活性化 ③広報活動の充実	① 校外実習活動，交流学習の実施数を年間 35 回以上行う。	① 校外実習活動と交流学習の実施回数。（計 36 回）	A	評定 A （所見） 地域に根ざした学校として地域貢献，環境保全活動や新しい時代に対応した農業教育を実践してきた。今後も，地域に根ざした学校として活動していきたい。	A	
	② 年間を通して野菜・果樹・草花・加工品等を中心に農産物の生産と販売をおこなう。	② 年間を通して 野菜，果樹，草花，加工品等を中心に農産物の生産と販売を行うことができた。生産収入も当初予算より増額となった。	A			
	③ ホームページの更新を月平均 10 回以上おこなう。	③ ホームページの更新については月平均（10 回）	A			
	活動計画	活動計画の実施状況	成果と課題		学校関係者の意見	
	①-1 地元小・中学校・高等学校・特別支援学校等で土作りから栽培管理等について農業支援をおこない交流を深める。(10 回以上)	①-1 ひのみね支援学校 1 回（花壇作り），生比奈小学校 6 回（野菜の定植のための圃場整備やサツマイモ植えつけ・収穫），上勝中学校 1 回（芝小僧作り），勝浦中学校 1 回（草花の寄せ植え，芝小僧作り），小松島西高校との末西藍プロジェクト（藍の栽培・染色体験）8 回（計 17 回）	日頃学習した農業に関する知識や技術をいかして様々な活動に取り組んできた。交流学習や学校間連携では，農業についての知識や技術を支援することで生徒自らの学習意欲が喚起され，自信となった。また，体験をとおしてコミュニケーション能力の向上や本校の取り組みについて理解していただく良い機会となった。今後も生徒の自主性や主体性を育てるような取り組みが必要である。 バイオテクノロジー技術を活用し，絶滅危惧種や希少植物の保護，保全活動ができた。しかし，現地への移動方法や資材の購入等の予算捻出や授業時間の調整が課題である。 地域に根ざした学校として，また，農業高校として生産から加工・販売に取り組んできた。そして，地域の農産物及びその販売状況についても学習することができた。 新鮮で市場価格よりも安く安全で安心な農産物が購入できると地域の方々からも好評であった。 施設・設備の老朽化における整備と有効利用，狭小な圃場の有効活用を更に検討していく必要がある。 ホームページの掲載により学校と地域社会を繋ぐ大きな接点となった。ホームページの掲載を更に勧めたい。	学校農業クラブや 6 次産業化事業，藍プロジェクトなどの活動を通してたくさんの技術や，経営や流通に関する知識を実践的に身につけてほしい。また，それを生かし就職につなげてほしい。 先生方は，土曜日・日曜日も出勤で大変であろうと思う。 生徒の地域での販売実習が減っているように思うが，小・中学校との交流学習は増えている。地域としてはうれしいが，外での活動が増えると校内での作業に影響が出るということを知り，やはり教員が減らされていることを残念に思う。町も人口が減っており，高校生がいるだけで町が活性化している。勝浦校の存在は大きく，地域に根ざした学校として今後も意欲のある生徒を獲得し，大きく成長させてほしい。	○ 校外実習活動，交流学習の継続と実施。生徒の自主性・主体性の育成 ○ 校外での活動を行うための予算確保 ○ 計画的な施設・設備の整備と有効活用の推進 ○ 研究機関や農家等の見学や研修。そのための予算確保 ○ 情報発信と宣伝活動の充実
	①-2 地元の病院や介護福祉施設へ出向き，花壇作り等環境整備をおこなう。（20 回以上）	①-2 勝浦病院（花壇作り，庭園管理 4 回），特別養護老人ホーム喜楽苑（花壇作り・庭園管理・寄せ植え交流 9 回）（計 13 回）				
	①-3 ジンリョウユリやリンドウ等希少植物の苗の提供，植え付け，観察等増殖活動をおこなう。(4 回以上)	①-3 ジンリョウユリ等希少植物の苗の提供，植え付け，観察等の　増殖活動を行った。（計 3 回）				
	①-4 棚田での田植え，稲刈り等保全活動をおこなう。(3 回)	①-4 田植え，除草，稲刈り等へ参加した。（計 3 回）				
	②-1 地元に期待されている草花や野菜等魅力ある農産物の生産を心掛ける。	②-1 草花苗，メロンやトマト・露地野菜，スダチ・チャンドラポメロ，ジャム等多くの農産物を小学校や中学校，収穫祭，農産物販売所「よってネ市」等で販売しみなさんに喜んで頂いた。				
	②-2 地元の農産物販売所「よってネ市」で野菜・果樹・草花等の農産物をあわせて年間 35 品目以上販売する。	②-2 野菜・果樹・草花等多くの農産物の種類と数量を販売することができた。（計 39 品目）				
	③-1 ホームページの内容を見直し，新しいデータに更新する。	③-1 記事の内容や見やすさを考えて学校の様子や生徒の活動状況等を紹介した。			毎年の「収穫祭」を楽しみにしている町民の方も多い。さまざまな手段を利用して情報発信し宣伝・広報をおこなってほしい。	
	③-2 学校と保護者の連携を図るため各イベントに応じて情報の発信をおこない，説明責任を果たす。	③-2 保護者に各行事等についての案内や連絡をしたりホームページでの掲載をしたりして情報の発信を行うことができた。				